カムチャッカ半島におけるガンカモ類フライウェー湿地の水草資源量

[1]神谷　要◎　[2]須川　恒・[3]浜端悦治
1)(財)中海水鳥国際交流基金財団・2)龍谷大学・3)滋賀県琵琶湖環境科学研究センター

カムチャッカ半島西部の湿地帯は、日本に飛来するガンカモ類の繁殖地や中継地であることがわかっている。これらの地域のガンカモ類にとっての餌資源は、日本へ水鳥たちが飛来する上で重要な要素であり、これらの湖の生態系を知る上でも貴重な情報ともなる。今回､カムチッャカ半島西海岸のマーラヤ湖(52°31′N,156°27′E) とウダチカ自然保護区周辺で調査を行ったので報告する。マーラヤ湖は、面積約 10km^2 の湖で、湖心部でも水深 30-70cm と立つことができるほど浅い湖である。湖には一面に水草(ヒロハノエビモ)を中心とした水草群落が形成されており、リュウノヒゲモ *Potamogeton pectinatus* L.やカラフトグワイ *Saittaria natans* Pallas などの塊茎を形成する沈水植物群落も見られた。これらの植物の塊茎は、湖底で越冬し、一年を通して水鳥の餌となることが知られている。

今回、2005 年 7 月 12-16 日にマーラヤ湖周辺において、水鳥の食痕のある湿生植物や沈水植物を探し、その周辺で 0.6m×0.6m の範囲を地中 20cm までの刈り取りを行って水草の現存量を測定した。

その結果、沈水植物リュウノヒゲモの現存量は、越冬地である米子水鳥公園に比べ、カムチャッカの植物は非常に現存量が小さかった。これは、現存量を計量した他の植物でも同様である。しかしながら、カムチャッカでは、これらの植物群落の面積は広大で、多数のガンカモ類は生息のために必要な食物を十分にまかなうことができるのであろう。

表.食痕のあった植物の現存量の比較

種名		g/m２
ロシア・カムチャッカ　2005 年 7 月		
Carex middendorffii Fr.Schm	クロスゲ(ツンドラバヤ川)	88.5±4.0
Carex sp.	スゲ sp(アバチャ川河口域)	19.4±4.7
Saittaria natans Pallas	カラフトグワイ（マーラヤ湖)	4.4±1.2
Potamogetonperfoliatus L.	ヒロハノエビモ(マーラヤ湖)	10.5±2.3
*Spargnium hyperboreaum*Beurl.exLeaest.	チシマミクリ(マーラヤ湖)	5.0±1.8
Potamogeton pectinatus L.	リュウノヒゲモ(マーラヤ湖)	1.9±0.6
Potamogeton pectinatus L.	リュウノヒゲモ(ボリショイレック湖)	1 2.8±13.8
日本・山陰		
Potamogeton pectinatus L る	（米子水鳥公園 2005 年 7 月）	268.6±51.3
Por annua L..スズメノカタビラ(島根県安来市 2004 年 3 月)		33.7±11.5